



東青地域県民局地域農林水産部普及指導室

〒030-0801 青森市新町二丁目4-30 (Tel 017-734-9965、fax 734-8305)
電子メール hi-nosui@pref.aomori.lg.jp

農村起業に取り組む方を応援しています！

農産加工・販売で所得アップ



女性達が開発した売れ筋商品

いろいろなタイプの農村レストラン



郷土料理が楽しめる農家レストラン「再会」



豆御膳が人気



道の駅テナントの「豆や」

農村起業は、産直にとどまらず、食品加工や旬の味・伝統の味を伝える農村レストラン、消費者との交流を求めた体験農場など、多彩なものとなっています。昨年の産直施設の販売額は、県全体で過去最高の74億円でした。そのうち東青地域は10億3千万円と県全体の約14%を占め、年々増加傾向にあります。このことは、生産者が自ら販売する農産物や加工品に対する消費者の安心・信頼感の現れであると思います。

東青地域は、観光などで県内随一の集客力を有し、平成22年末の東北新幹線新青森駅開

業も間近に迫っており、農業分野においても大きなビジネスチャンスが見込まれます。

この好機を逃してはいけない！と普及指導室では、今年度から、「東青の農村起業活性化対策事業」や「女性起業を核としたミニクラスター創出事業」等の新規事業を活用し、農村起業に取り組む方を強力にバックアップして参ります。

これから農産物加工や農家レストランなど実施してみたいと考えている方や起業のステップアップをめざしている方は、どうぞ、お気軽にご相談ください。

目指せ「東青そば海道」！



陸奥湾を望む「そばの花」

東青地域のそばは作付面積が約1,000 ha、県内最大の産地となっています。これまで、東青地域では集落営農組織等が自然乾燥や低温貯蔵による品質の向上、排水対策の徹底による生産性の向上等に取り組んできました。また、玄そばやそば粉を青森市内のそば店へ供給するとともに、そば打ち研究会や加工組織がイベント等でそば麺販売や試食を行うなど、ブランド化を目指してきました。

このような状況の中、普及指導室では今年度「東青そば海道づくり推進事業」を創設しました。海に隣接した国道280号線沿いに作付が集中する「そば」と、管内全市町村が海に面し豊富に産出される海産物を結びつけ、ブランドを確立することを目的としています。

今後、有識者や専門家のアドバイスを得ながら、農・商・工業の連携を強化し、東青産そばのPRによる消費拡大、商品メニューの試作・検討、そば打ちレベルアップ講習会等に、関係者一体となって取り組んでいくこととしています。



好評だった！そばメニュー

わけもの

若い人頑張ってます。

青森市岡町 津島鉄平さん

平成16年、父の退職を契機に農業を始めた津島さんは、現在、蓬田村で1,120坪のハウストマトを栽培しています。時を同じくして友人の森順治さんもトマト栽培を始め、JA東つがるトマト部会のホープとして腕を磨いています。

栽培は、株毎に点滴かん水を行う方式で、かん水作業が省力的で収穫量も多めに穫れるようです。取材に伺った時には、農協の育苗施設でトマトの接ぎ木作業を行っていましたが、就農前から同施設での作業を経験しており、もはやベテランの域？と思われました。

将来は、「仕立て法の改良や収量のアップを目指し、サラリーマン並みの所得を得ることが目標です。」と語ってくれました。また、これから就農する人へのアドバイスとして「周囲から、より多くの情報を得ることが大切。」と話してくれました。地域農業の担い手として東青の若い人頑張ってます。



「すばらしい活着率！」育苗施設にて

普及指導室スタッフを紹介

とうせいみなみ

東青・南地域担当



副室長(総括主幹)
梅村 幸一

東青・南地域
青森市
平内町



New! 室長
桜庭 守

東青・北地域
今別町
外ヶ浜町
蓬田村

とうせいきた

東青・北地域担当



副室長(総括主幹)
長内 達也



主幹
鎌田 龍司
【果樹】

New!



主幹
神 俊成
【水稲】



New!

主幹
館山 峰春
【野菜・畜産】



主幹
長村 芳枝
【花き・集落営農】



主査
工藤 マサ子
【生活】



主査
若宮 通子
【畑作・野菜】



主幹
長内 明人
【経営】

New!



主査
飯田 久
【野菜・花き】



技師
鈴木 宣建
【果樹】

New!



技師
片山 伸也
【資金・水稲】

New!



技師
鈴木 千春
【生活】

New!



技師
松浦 孝幸
【新規就農・畑作・水稲】



技師
稗貫 雪音
※育児休業中

New!



臨時事務手
加賀谷 美和

〈春の農作業安全運動〉

事故の多くは、トラクターでの転落・転倒です。作業時は、周囲に気をくばり、道路・ほ場の端に寄りすぎず、ほ場の出入りや畦畔越えは慎重に行いましょう。

〈山火事防止〉

山火事の発生原因の約67%はタバコの投げ捨て、たき火、火入れなどの不始末です。一人一人が注意し、恐ろしい山火事を防ぎましょう。

地域農業を担う新しいリーダー 新農業経営士、ViC・ウーマンを紹介します！

去る2月、東青管内では、1名の農業経営士、3名のViC・ウーマンが県知事から認定を受けました。今後一層の活躍が期待されています。

*辻村 斉さん (平内町)



水稻を基幹とし、野菜と肉用牛(繁殖)を組み合わせた大規模複合経営。これまで農業委員・農業振興対策協議会委員として、野菜振興や繁殖牛の拡大等に尽力。担い手の育成・確保に取り組んでいます。

*石村厚子さん (青森市)



エコファーマーを取得するなど消費者ニーズに合った、環境にやさしい農業に積極的です。平成19年度より「浪岡アップル友の会」初の女性会長として82名の会員の牽引役を務めています。

*木村信恵さん (外ヶ浜町)



平成19年にそば打ち体験ができる農家レストランを開業。幅広い経営管理の知識を生かした組織活動を展開し、地元産そばの活用による地域振興に力を入れています。

*本郷まつ子さん (今別町)



平成14年に仲間と共に「大川平加工グループ」を組織。事務局長や会計として会長を補佐し、農産加工活動に対し優れた経営感覚を発揮しています。

平成20年産「水田経営所得安定対策」

旧制度名「品目横断的経営安定対策」の加入申請は、6月30日まで！

(ただし、市町村特認制度の申請は5月31日までに市町村へ)

今回から、加入手続が簡素化され、申請時期も4月1日から6月30日までに集中して行えるようになりました。新たに市町村特認制度が創設され、4ha未満の認定農業者や20ha未満の集落営農組織にも加入の道が開かれました。詳しいことは、普及指導室、市町村、農協または、東北農政局青森農政事務所 (Tel:017-775-2151) にお尋ねください。

青森県日本一健康な土づくり運動の一環として、 「簡易土壌診断」を実施します

本年度に限り、過去3年間に土壌診断を受けていない全販売農家を対象に、1農家1点を無料で土壌診断します。

診断項目は、pH、硝酸態窒素、有効態リン酸、可給態加里の4項目です。

農大式簡易土壌診断キット「みどりくん」を使用するため、結果を素早くお知らせできます。

具体的な日程や方法等については、市町村、農協と打合せの上、お知らせしますので、是非、この機会に、土壌診断を受けましょう。

<山菜取り等 遭難事故防止>

家族等に行動予定を連絡し、単独の入山はやめましょう。万が一に備えた装備をし、目先の収穫より安全を優先しましょう。